

海面養殖用ニジマス(ローカルサーモン) 種苗早期生産手法を確立

【背景・目的・成果】

- ・ 県内におけるニジマス(ローカルサーモン)の海面養殖用種苗は、500g以上の個体が求められています。河川水を用いた通常の生産では2年の飼育期間が必要になります。
- ・ 種苗の安定供給及び生産コストの削減のためには、短期間で成長する養殖用種苗の県内確保が強く望まれています。
- ・ 閉鎖循環飼育システムを用いて最適飼育条件で育てることにより、採卵後1年で500g以上に達する早期生産手法を確立しました。

【早期生産手法】

- 1 ニジマス親魚から秋季に採卵し、その後発眼卵を閉鎖循環飼育システム内に移してふ化、餌付終了まで10℃程度の水温で管理する。
- 2 餌付終了後は、水温を1日に1℃程度徐々に上げ、15～17℃の水温で飼育する。
- 3 毎日、標準的な量(ライトリッツの給餌率表に基づく)の配合飼料を与える。
- 4 出荷までに5回程度選別し、大型個体を残す。この際、使用する水槽の大きさに見合った飼育密度となるように調整する。総魚体重(kg)/水槽水量(L)は、エア注入飼育の場合で0.01以下が望ましい。それ以上では酸素注入をし、溶存酸素量が8mg/L以上になるように調整する。
- 5 出荷魚の海水馴致は、1/3海水で2～3日、その後海水の微量注水で海水濃度を上げ、1/2海水で5日程度、3/4海水で10日程度飼育し、全海水へ移行する。

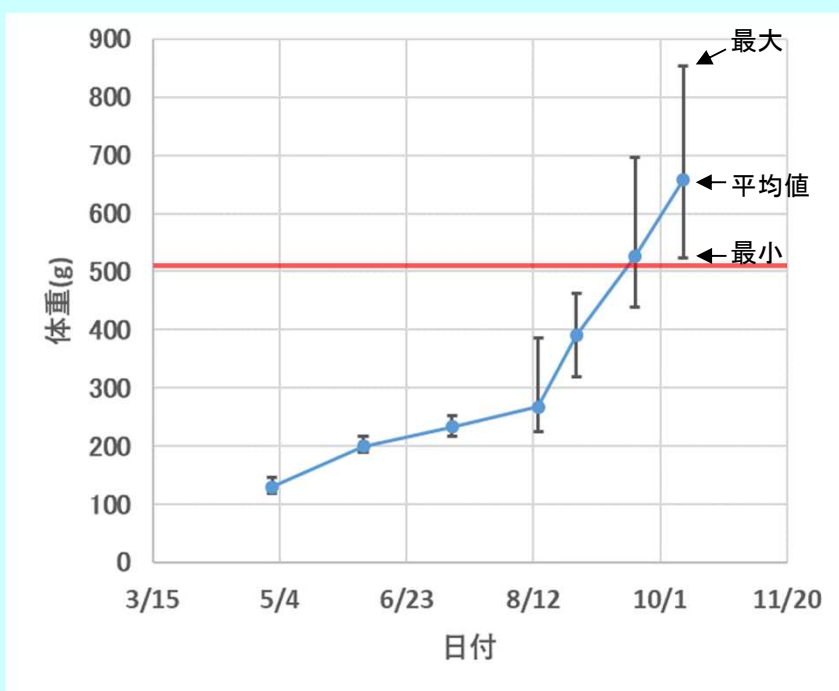


図1 早期生産中の成長



図2 海面生簀への収容

【技術の活用】

閉鎖循環飼育システムを整備して、本技術を用いることにより、海面養殖ニジマス(ローカルサーモン)の早期種苗生産に取り組むことができます。

